

令和5年6月5日

6年生 保護者の皆様

大阪市立姫島小学校
校長 吉田健太

お詫びと顛末のご報告

6月1日・2日の修学旅行の実施におきまして、線状降水帯発生による記録的な大雨の影響で、高速道路および一般道の帰路を断たれ、結果として、和歌山県御坊市の市民体育館の避難所で一夜をすごすことになりました。これにより、子どもたちに大きな心身の負担をかけ、保護者の皆様に多大なご心配をおかけすることになったこと、引率責任者としてお詫び申しあげます。

以下、あらためて顛末を整理し、ご報告いたします。

【6月1日】

- くもりから雨の予報であったが、夕方の活動まで雨を持ちこたえ、終日、屋外での活動を含め予定どおりの活動を実施することができた。

【6月2日】

- 早朝から大雨の天候。大雨警報発令。この時点で、より慎重な情報収集・より慎重な判断が必要な場面であったと振り返り反省するところであるが---、
「陶芸体験・三段壁洞窟・どれとれ市場での昼食をすべてキャンセルして修学旅行を途中で切り上げ、早期に帰校する」という考えには至らず、
「屋外での危険な活動はおこなわず、安全な範囲で予定の活動を実施し、予定どおりに13時に現地を出発する」という判断に至った。

※大阪の都市部では日頃は大雨警報で休校になることはないので、大雨警報に対する感度が鈍かったことは大きな反省点。高速道路の何らかの規制等は想定していたが、山間部ではない海沿いの一般道が冠水のために通行できなくなり帰路を断たれる事態までは想定していなかった。

※また、宿泊行事の行動中はテレビを見ることがないので、情報収集が不足していたことも大きな反省点。より積極的に情報収集を図るべきであった。

- 予定通り陶芸体験を実施。
- 危険回避のために見学ルートの制限はあったが、三段壁洞窟見学を予定どおりに実施。
- 千畳敷見学は車窓からの見学に変更。
- どれとれ市場での昼食を予定どおりに実施。
- 13時に予定どおりに現地出発。帰路につく。この時点で情報を得ることができていなかったが、正午に和歌山県北部に近畿地方で初めての線状降水帯の発生が発表された。
- これに伴い現地から海南東ICまで阪和道は通行止めに。高速道路に入ることができずに国道42号を北上。一般道での帰校を図る。御坊市を過ぎ、日高川町を過ぎたあたりで道路冠水により通行止め。旅行会社・バス会社と対応を協議。この時点では、山間部を抜けるルートは通行止めではなかったが、洪水・土砂崩れの危険を考えるとその選択はとれないと判断。旅行会社の手配により御坊市の市民体育館での安全確保のための避難を決める。必要な食料・水分等を確保し、17時に避難所に入る。

裏面につづく

表面からのつづき

- ・21時までに高速道路の通行止めが解除されれば帰校する。21時までに解除されなければ避難所で一泊する。そのような方針を旅行会社・バス会社と協議のうえ決める。食事をとり、その時点まで待機する。
- ・御坊市の災害担当者の方々、御坊市青年会議所の皆さん、御坊市の地域の方々にたいへん温かい対応を受ける。学校が準備した食料・水分にプラスして、パンの差し入れ、おにぎりの差し入れ、ちゃんこ鍋のふるまいを受ける。災害対応物資として、毛布とエアーマットが運び込まれる。
- ・21時に通行止めが解除されることはなく避難所での泊りとなる。御坊市の災害担当者の方々、御坊市青年会議所の皆さん協力のもと、エアーマットを膨らませ、体育館フロア全面にひろがり就寝準備。22時には消灯。多くの子どもたちは寝つけない様子。

【6月3日】

- ・早朝の時点で高速道路の通行止めは解除されていなかったが、天候は回復していたので、早期の通行止め解除を想定して6時起床。洗面・着替えをおこない食事をとりつつ解除を待つ。
- ・6時30分に通行止め解除。7時に現地を出発。9時に姫嶋神社到着。学校に移動して解散。

この間、子どもたちがおおむね元気に、前向きに、協力的にすごしてくれたことにたいへん救われました。また、意図したことではありませんが、子どもたちがたくさんの方の温かな好意を受け、得難い体験をしたと考えられることも救いではあります。しかし、結果として、子どもたちに大きな心身の負担をかけ、保護者の皆様に多大なご心配をおかけすることになったことはゆるぎない事実です。引率責任者として責任を痛感いたします。重ねてお詫び申しあげます。